

第6回総合計画等推進市民委員会 事前質問・意見一覧表

事前に送付した会議資料に対し、以下のとおり質問や意見が寄せられておりますので、回答とあわせ、報告いたします。

I. 寄せられた質問及び意見の件数（総括表） ※政策6～9

資料名等	質問数	意見数
1. 資料2 政策公約評価の基礎資料 2年目	0	0
2. 資料3 政策公約対応事業の取組状況 2年目	4事業	1事業
3. その他	1	0

（次ページ以降に具体的な質問や意見の内容を掲載）

II. 具体的な内容

その他

●質問

No.	内容	
1	質問	資料の表記内容に関する質問 各政策の事業について、新規事業かこれまでの継続事業(1年目以前もこれまで八戸市で取り組まれてきた政策)なのか表記されている部分がありますでしょうか。
	回答	【担当課】政策推進課 資料3「政策公約対応事業の取組状況」で、1年目の枠に記載があるものが1年目からの継続事業となり、記載のないものが2年目から新規事業となります。 なお、継続事業の中には、熊谷市長就任以前からも取り組んでいる事業も公約事業として位置付けておりますが、それがわかるような表記にはなっておりませんので、次年度以降の資料作成の際には、資料の構成について検討いたします。

【資料3】 政策公約対応事業の取組状況 2年目

○政策6「子どもファースト事業」の展開

●意見

No.	内容	
2	質問	政策6/重点施策6-1/事業3：市政情報発信力の強化事業【資料3：79ページ】 広報はちのへの紙面リニューアルは子育て世代はもちろんのことですが、「市民全般の広い世代」にとっても目を通しやすく、手に取りやすくなったように感じました。またイベントに「広報誌を見て興味を持って来ました」という方もいらっしゃいました。市民活動に関する特集も増え、今後さらに市民参加型の広報誌になっていくと良いと感じました。
	回答	【担当課】広報統計課 (意見として受理するため、回答無し)

●質問

No.	内容	
3	質問	政策6/重点施策6-1/事業8：軽・中程度障がい児保育事業【資料3：84ページ】 令和4年度の決算額が予算額の半分以下なのは何か理由があるのでしょうか。
	回答	【担当課】こども未来課 過去5年の平均人数に2人分上乗せして予算化しましたが、保育士の不足により専任の保育士の配置ができなかったこと、公的機関による検査の結果又は児童相談所の長から障がい児保育を実施することが必要と認められるなどの条件を満たす児童が見込みより少なかったことなどの理由により、決算額が予算額の半分以下となったものです。

●質問

No.	内容	
4	質問	<p>政策6/重点施策6-4/事業1：子ども食堂支援事業【資料3：108ページ】</p> <p>① 八戸市内の子ども食堂、八戸こども宅食おすそわけ便それぞれの団体数はどれほどでしょうか。</p> <p>② また今後子ども食堂事業などを実施したいという団体が出た場合の支援なども現在取り組まれているのでしょうか。(記載されている取組実績・成果が既存の団体への事業がメインに読み取れたため)</p>
	回答	<p>【担当課】子育て支援課</p> <p>① 市内の子ども食堂については、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、約3年間にわたり開催が自粛され、代替の取組として袋詰めした食材等を希望者に配布する「こども宅食おすそわけ便」の活動が行われてきたところです。今年度、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の取り扱いが2類相当から5類感染症に移行したことに伴い、徐々に子ども食堂が再開される動きが見られおり、現在、開催状況や再開の予定、運営上の課題を把握するためアンケート調査を実施しております。8月28日現在の調査結果では、子ども食堂の運営団体は5団体、八戸こども宅食おすそわけ便の実施団体は10団体となっております。</p> <p>② 子ども食堂の開設について相談があった場合には、開設の手順や留意点、衛生管理のポイント等について、国の通知や青森県社会福祉協議会が作成した子どもの居場所開設マニュアルに基づき開設に向けた助言を行うとともに、民間団体等の助成制度や講習会等について情報提供を行っております。委員御指摘の新たに開設を希望する方への支援については、現在実施しているアンケート調査の結果や他都市の事例等を参考にしながら検討してまいります。</p>

○政策7 多様な市民力を地域の活力に

●質問

No.	内容	
5	質問	<p>政策7/重点施策7-2/事業2：地元企業ファンづくりプロジェクト事業【資料3：112ページ】</p> <p>① 協力企業をまとめた冊子はどのようなものでしょうか。参考に回覧など出来ましたらお願い致します。</p> <p>② この冊子の配布先は市内の小学生から大学生のみが対象なのでしょうか。地元定着の促進はもちろんですが、移住促進や各種関係イベントでも地元企業を知るツールとして汎用性があるのではないのかと感じました。</p>
	回答	<p>【担当課】産業労政課</p> <p>① 令和5年度はちのへ地元企業ファンづくりプロジェクト登録企業リスト(配布資料)となります。</p>

No.	内 容
	<p>② 本事業は、就学期から地元企業への理解を深めることを目的として、誘致企業を中心とした地元企業による出前講座や視察研修等の機会を提供しているものであり、協力企業をまとめた冊子につきましては、本事業の対象としている市内の小中学校、高校、大学へ配付し、各教育機関からは、社会科見学やキャリア教育等、様々な機会でご活用いただいております。</p> <p>また、移住促進や各種関係イベント等における情報発信としては、「八戸市企業就職ガイドブック 八戸で働こう！」や「八戸企業ガイドブック」等の冊子を配付し、本事業の協力企業も含めた地元企業の情報を発信しております。</p>

●質問

No.	内 容
6	<p>政策7/重点施策7-2/事業3：高校生による地元企業魅力発見体験事業 【資料3：113ページ】</p> <p>質問</p> <p>① 事業名で検索したところ市のHPのほかには青森県三八地域県民局が主催の38ライフワークプロジェクトの取り組みに関する記事(2022.08.02)がヒットしました。県民局の事業と比較すると八戸市主催になることで八戸市の企業・高校に特化した取り組みになることが期待出来ると感じましたが、その他に現段階での取り組み内容の違い、または逆に関連性などはあるのでしょうか。</p> <p>② 参加する生徒はどのようにして決められたのでしょうか。高校や学科、男女比など教えてください。</p>
	<p>【担当課】産業労政課</p> <p>回答</p> <p>① 「高校生による地元企業魅力発見体験事業」は、地域の次世代を担っていく高校生自らが市内の企業を調査し、情報発信することを通じ、地元企業や八戸で働くことの良さを認識してもらうことで、地元企業における人材確保や当市への人材定着を図ることを目的として、今年度から開始したものとなります。</p> <p>ご質問のありました、青森県三八地域県民局実施の「38 ライフワークプロジェクト（事業名「女子目線による地元の魅力の調査・発信・共有事業）」は、三八地域の高校（普通科）・大学に通う女子学生が同地域の企業を対象に調査及び情報発信活動を令和2年度から令和4年度まで実施しました。</p> <p>当市事業の参加対象者は、市内の高等学校に通学する生徒としており、学科や男女を問わず参加できる形とし、事業名を「チャームエイト」として発信し、市内全校に幅広く参加者を募集いたしました。</p> <p>② 参加生徒の募集にあたっては、市内全高等学校を訪問して事業趣旨を説明した上で各校毎に申し込まれました。</p> <p>今年度は4校から20人（男子生徒11人、女子生徒9人）に参加いただき、現在6グループに分かれて活動しているところです。</p>